

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	勝谷紀子	所属	東京大学先端科学技術研究センター
研究会等名称	難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 4名 (うち認定心理士 1名) 非会員 1名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本研究会では、聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分ではないという現実から生じる心理学的問題について考え、難聴者に対する心理学的研究の方向を探ることを狙いとしている。研究会の主なメンバーは、障害児教育、知覚心理学、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、特別支援教育、医学などさまざまな領域で難聴の研究をしている研究者、現場で活動をおこなう実践者、医療従事者である。</p> <p>今年度は、難聴の問題に関心を持つ研究者や臨床家に書籍を広く周知し、意見交換と情報交換をおこなうことを目的として、研究集会を実施した。具体的には、日本心理学会第85回大会(2021/9/1-8) (ウェブ開催)において、公募シンポジウム「難聴・聞き取り困難への支援 ―アフターコロナをみすえて―」を開催した。このシンポジウムでは、聴覚障害学生、中途失聴、人工内耳など多様な聞こえ・言葉の聞き取りの困難の課題について現状を話題提供いただき、コロナ禍の収束後を見据えて聞こえ・聞き取り困難がある人々へのよりよい支援のあり方について考えていくことをねらいとした。</p> <p>登壇者は、話題提供者が勝谷紀子 (北陸学院大学)・高宮明子 (大阪府立支援学校)・中津真美 (東京大学)、指定討論者が佐野智子 (城西国際大学)・小淵千絵 (国際医療福祉大学)であった (敬称略、所属は当時)。</p> <p>これらシンポジウムの開催により、多様な聞こえにくさを持つ難聴者への支援のあり方について有益な意見交換、情報交換を行うことができた。来年度においては、引き続き、難聴者の理解を深めてよりよい支援を実現するために、学術大会でのシンポジウム等で広く周知し、難聴・難聴者についての啓発活動もおこなっていく予定である。具体的には、未成年者を対象にした難聴・難聴者理解のための書籍等のコンテンツを作成することなどを計画している。</p>		

(様式5)

2021年4月28日

日本心理学会研究会 2021 年度会計報告書

研究会名称 難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号 21014

助成金額 ¥15,000

年月日	項目	金額
2011年9月1日	講師シンポジウム登壇への謝礼(1名)	¥14,000
2011年9月1日	講師シンポジウム登壇への謝礼(1名)への振込手数料	¥150
2021年9月8日	レターパックライト	¥370
2021年11月3日	レターパックライト	¥370
2022年4月28日	レターパックライト	¥370
	支出合計	¥15,260

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
難聴者の心理学的問題を考える会				
研究集会開催日： 2021 年 9 月 1日(水)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	勝谷紀子	北陸学院大学（現在、東京大学先端科学技術研究センター）	○	○
2	高宮明子	大阪府立支援学校	○	
3	中津真美	東京大学		
4	佐野智子	城西国際大学	○	
5	小淵千絵	国際医療福祉大学	○	
6	※オンライン開催のため、その他の視聴者については不明			
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				